

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和3年3月5日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470205588		
法人名	株式会社広島厚生会		
事業所名	グループホーム広島萬象園		
所在地	広島県広島市中区羽衣町1-26 (電話) 082-246-3260		
自己評価作成日	令和3年2月2日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3470205588-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

高齢者複合施設として、シルバーマンション、有料老人ホーム、グループホームの入居施設があり、住み替えが可能。また、デイサービス、ホームヘルプステーションの介護サービスも同施設で行っている。毎月開催される行事を通じて施設内の交流を深めている。グループホーム内では、入居者の意思を尊重し、安全安心を基本とした日常生活を提供している。一人ひとりの「できること」「援助が必要なこと」を見極め、出来る自分を心地よく感じてもらい残存機能を維持できるよう支援している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

家庭的な雰囲気の中、利用者がその能力を十分に活かせる環境で、明るく笑顔の多い日常生活を過ごせるよう支援している。今までできていたことが維持継続できるようトイレでの自立排泄には生活リハビリを取り入れゆっくり見守り支援しているため布パンツの利用者も多い。職員は利用者を常に観察し、表情などから言葉で表せない思いを把握する努力をし、利用者の満足度やケアの向上に取り組んでいる。利用者の人格を尊重し、敬意を払う接遇・介護を行っている。食べる楽しみを大切にし、栄養バランスを考慮した品数の多い手作りの食事が提供されている。週に一度は昼食作りを楽しみ、時にはおしゃれをしてレストランで非日常を味わうこともある。医療面でも医療従事者と連携をとり適切な医療を受けられる体制が整えている。

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「地域社会に愛され役立つ施設として、利用者様それぞれの尊厳を守り、生活意欲を高め充実した日々、安全な生活を快適に維持し実感して頂く」という法人理念を会議で取り上げ職員一丸となり施設を運営している。	事業所理念は会議などで折に触れ取り上げ共有している。職員は安全・介護サービス・生活環境委員会のいずれかに属し、家庭的な環境下で利用者がその有する能力に応じ、安全で充実した笑顔が継続できる日常生活を送れるよう取り組み、理念を実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域内の喫茶店やレストランへ食事に行ったり、商店、コンビニに買い物に行き、交流を持っている。地域住民の参加を目的に萬象園祭りや花火大会を開催し、地域とのつながりを深めている。(コロナ感染症の為、萬象園祭りと花火大会はR2年度は中止)	毎年、萬象園祭りや花火大会を開催し、積極的に地域住民と交流を図っている。事業所は町内会の一員として地域の役割も担っている。町内会長からは運営推進会議で地域の情報や災害時の対応などの提案や助言があり、日常的に地域交流が図られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話相談や施設見学、介護サービスの利用相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様、家族様、町内会役員、居宅事業所、有料老人ホーム、地域包括支援センターの参加で偶数月に開催している。運営全般について報告を頂いている。新たなことを始めている場合も会議に載せている。また、事故や苦情についても明らかにしている。	運営推進会議で近隣地域のグループホームの合同の会議を提案され、開催することにした。事業所の特徴のアピールや、書類の記載方法・報告や研修・認知症などの情報交換・情報共有の場が持てその後の利用者のケアやサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から利用者様の利益の為に、サービス内容についての問い合わせ、対応などを行っている。また、市が主催する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。	介護保険に関する疑問点など市に電話をし助言を受け、サービスに繋げている。市の開催する研修にも積極的に参加している。地域包括支援センターからは100歳体操など、利用者のケアの向上に繋がる様々な情報助言を提供してもらっている。今後も協力関係が継続できるよう取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束禁止委員会を発足し、委員会の結果は全職員に議事録を回覧し、周知徹底している。職員研修も行い、身体拘束をしないケアを目的に定期開催を予定している。	何が身体拘束かは内部、外部研修の実施により周知理解している。現在はスピーチロック防止に取り組み、日ごとの声掛けが行動制限に繋がらないよう職員同士で注意し合っている。身体拘束禁止委員会、安全委員会とも連携して身体拘束をせず安全に過ごせるケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	外部の研修会への参加や施設内で権利擁護、プライバシーの保護、虐待についての勉強会を実施している。安全委員会では事例を通して職員に質問形式として自分を振り返る等、啓発運動を継続的に行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	集団指導研修などの外部研修で学び、職員へ周知している。相談があれば各種機関の資料を準備し、説明の上相談先へ繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	重要事項説明書に沿って説明し、ご理解頂いた上で契約書に署名をお願いしている。電話での問い合わせも丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議で質疑し、議事録を開示している。苦情は施設以外の公的機関へ申し立てが出来る事を伝えている。苦情は受付後、解決まで対応し、対策が継続して行われているかの確認も行っている。	洗濯物が間違えて戻る、居室のゴミ箱のごみを毎日捨ててほしい、新聞紙で作ったごみ箱を置いてほしいなど日常の要望が家族からあった。洗濯物は一括ネットに入れて洗濯することに、新聞紙のごみ箱は利用者によってもらって使用するなどすぐ実践に移し、利用者の快適な生活に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事、日課、業務内容、入居者様の思い等は、会議や各委員会で意見交換を行っている。入居者様がより良い生活を送れるよう、職員皆で努力している。	管理者は職員が意見を出しやすい、相談しやすい人間関係・環境を常に心がけている。職員からは利用者が過ごしやすい環境整備や利用者のケアの質の向上に関しての提案・意見が多く、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に個人面談を行っている。各自のレベルに応じて目標を立てている。経験や習熟度により責任のある職位を任せバックアップしている。資格の取得の為に個人学習をする場合、勤務に配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加と、施設内学習会を2本立てで実施している。施設内学習会は、介護、医療、接遇と各種のテーマで系統を立てて行っている。習得を奨励し自己学習については休務の希望を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	居宅や他の事業所と交流したり、定期的な委員会の報告会や勉強会を行っている。(コロナ感染症で面会禁止時は中止)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人さんと家族様に面談を行い、家族様からの情報と合わせて、本人様の心情を汲み取っている。本人様の情報は、職員間で共有し信頼関係を築き、安心感が持てるケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様等の要望に対して、家族様との面談を設け、個別に話をすることで、本人様、家族様双方が無理なく生活できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居判定会議を行い、入居に至るまでの経緯を明確にし、多職種とも話をすることで、入居時に本人様に対して何を援助していくかの方針を導き、サービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事仕事等本人様に適した役割を持って頂く事で、充実した日常を送り、共に喜び感謝の意を職員が表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、日々の生活の様子を写真と一緒に郵送している。面会時には本人様の様子を都度伝えている。また、外出のサポートや行事の際、家族様と過ごして頂く企画を提案している。今年度に関してはコロナ感染症の影響により、面会に規制がある。電話対応等対応を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様に、大切にしていた思い出の写真などに名前を記入して頂き、写真を見ながら、職員と一緒に話をしている。	帰宅願望の思いを受け止め、家族同行で帰宅すると、仏壇に手を合わせる事が願望の一因だと分かった。利用者の言葉にできない思いを把握し、家族や亡くなった人との関係継続の支援に取り組んでいる。施設内の行事で友人になった人が訪問することもあり、新しい関係も継続できるよう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の人間関係が良好に保てるよう、気の合う方をみつけられる場所などを提供し、職員が仲介をする事で、気の合う方をみつけ、席の配置を考慮している。また、職員が全体を把握することでトラブル回避に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	不定期だが、住み替えをされた方に会いに行き、本人様の状態に応じた声かけで過去の居住空間を思い出して頂いている。家族様に会った際も話し傾聴している。		

Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを知り、介護計画を作成している。意思の表出が困難な方は、家族参加型ケアプラン会議で家族様から生活歴や生活習慣等の情報を得て、本人の言動や表情を探りながら、職員間で検討している。	利用者と職員が1対1でゆっくり関わる場面で思いや思い出を吐露することが多く、その機会を逃さず記録し共有している。昔喫茶店で飲んだミルクティーをまた飲んでみたいとの思いを聞いた職員が家族に確認を取り、職員と一緒にその喫茶店を訪れ昔の味を楽しむなど一人ひとりの思いに対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時から情報収集に努めている。入居後も関わっていた事業者、本人様、家族様から情報を得て、住み替えのダメージが軽減できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人で決められた基準を元に毎日ADL、QOLの評価を行い、入居者様一人ひとりの状態変化の把握に努めている。また、変化があった事等は記録に記している。		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人様、家族様の思いを確認し、医師、看護師、栄養士などとの連携を図り、本人様が「できるという心地よい気持ち」を持てるような介護計画を作成している。変化があれば都度見直し、職員に周知している。6ヶ月で短期目標を、12か月で長期目標の全てを評価し、生活援助に反映させている。</p>	<p>利用者に関係する全員で連携を図り、アイデアを出し合い、心地よく暮らせる介護計画を作成している。給食委員会と栄養士が連携し、糖尿病の利用者のために普通ご飯にこんにゃく米を混ぜ、糖質を減らすことで、ビスケット1枚のおやつから他の利用者と同じおやつを楽しめるように介護計画に反映させた事例もある。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>様々な生活場面での言動、表情、仕草を観察し、ケース記録に記載している。日々の申し送りで情報を共有し、新たなニーズやリスクが生じていないかを確認しながら、残存能力維持を目標に本人様の力を引き出すような介護計画を作成するよう努めている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>食欲の低下した入居者には、献立以外で本人が食べやすい物を準備し勧めている。また、複合施設の特徴を活かし、他の階と協力して行っている、クラブ活動や行事への参加を勧めている。(今年度はコロナ感染症の各階の制限がある時はGHのみで実施。)</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>ボランティアの協力で活気のある音楽レクを実施したり、修二を習い展示するなど生活の質を充実させている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>入居時、どの医療機関を受診するかを確認し、主治医を定めて頂いている。提携病院からは神経内科、歯科の往診がある。年1回は健診を実施し健康維持に役立っている。看護師や職員は、家族様や医療従事者と連携をとっている。</p>	<p>かかりつけ医の受診をすることも可能であり、家族は入所時に緊急時の直接対応、指示を貰える医師を主治医とするよう説明を受けており、ほとんどの利用者は協力病院の医師を主治医としている。主治医や歯科医の往診、他科への受診など看護師や職員との連携で、適切な医療を受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	介護職員は入居者様それぞれの観察点や注意点を熟知しており、毎日の健康チェックの結果や症状、訴えを施設看護師へ報告し、必要時は指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病棟看護師との情報交換を行っている。退院後は主治医の指示を守った生活を援助している。主治医、施設看護師の助言を得て、安全に生活できるよう援助している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	身体に変化がみられる方は、家人との面会時、都度状況を説明している。身体介護中心となった場合など重要事項説明書の手順で住み替えの話を行い、経過をフォローしている。	重度化した場合は、入所時に医療方針の説明があり、医学的管理が必要と判断された場合は入院となっており、看取りは行われていない。終末期における治療方針については利用者、家族、主治医、職員と話し合いのうえ、必要に応じて協議しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	看護師の指導で施設内で系統立てて医療学習会を行っている。緊急対応や医療機器の保管場所の把握、緊急輸送時の連絡体制など、実践に向けた学習を積み重ねている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	災害時の対処についてはマニュアルを整備している。避難訓練は入居者も参加し年2回実施している。町内会長や民生委員を通じて、地域住民に災害時の協力をお願いしている。	夜間の避難訓練を利用者参加で年2回行っている。地域の民生委員、町内会と協力関係を築いて災害対策に取り組んでいる。連絡網や備蓄も整備されている。災害時には○×のマグネットで利用者の安否確認を行えるよう工夫している。地震、水害に備えて実際に車いすで3階、4階に避難する訓練も行う予定である。	

自己評価	外部評価	項目(リバランス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	委員会が中心になり、全職員が接遇に沿った介助を心掛ける取り組みを実施している。排泄誘導など尊厳に関わることはさりげなく行うなど配慮している。個人ファイルはヘルパーステーション内で管理している。	個人調査書から生活歴、人生観など把握し、プライドや人格の尊重に配慮した接遇に取り組んでいる。言葉遣いも、「です、ます」と丁寧な対応を心掛け、服装もアイロンをかけたシャツの着用で利用者に敬意を払うケアに繋がるよう配慮している。トイレ誘導も小声やアイコンタクトでプライバシーを確保して対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解できる内容をゆっくりと分かり易くせつめいしている。選択肢を提供することで、本人様の意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	観葉植物や生け花に興味を持っていた際、職員が共に水をやったり、花を生け替えたりする。個別対応可能な時は外出したいという希望に応じている(コロナ感染症で面会禁止時は中止)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出張理容で理容を受け(コロナ感染症で面会禁止時は中止)、清潔感を保っている。環境委員が中心となり、利用者様の整容など曜日を決め、こまめに実施している。化粧をする入居者様に「綺麗」と褒めることで継続に繋げている。(コロナ感染症で外出禁止以外)外出時は、職員が手伝い更衣や化粧を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は施設が提供するが、毎日ご飯、みそ汁つぎ、メインの盛り付けは、入居者様と行っている。週に1回、昼食を入居者様と職員で作っている。食材の買い物も入居者様と出掛けている(コロナ感染症で外出禁止の時は職員が買う)野菜の下ごしらえや簡単な調理を一緒に行い、食後の食器拭きも役割分担している。	週一回昼食づくりの下ごしらえや煮物、焼き物の調理や盛り付けを楽しめるよう利用者の能力を活かしながら支援を行っている。パイキング、春のパン祭り、バーベキュー、全国お菓子フェアなどのイベントを開催し、食事を楽しむことのできる工夫をしている。	

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下や咀嚼の状態により食事形態を変更し、医師の指示の治療食にも対応している。1日の食事量、水分量を把握し摂取量が少ない入居者様には嗜好品や好みの飲み物を勧めている。体重変化を観察し、保健室と連携をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態を維持するよう努めている。声掛けや工夫で自発的な動作を促している。変化があれば歯科往診時に相談している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は個々の排泄パターンに合わせて声掛けすることで、トイレで排泄できるよう援助に努めている。パットの使用量の減少、布パンツの使用の継続に繋がっている。動作は出来るところまで本人様に行ってもらっている。</p>	<p>利用者の行動を常によく観察し、トイレで排泄できる期間が少しでも長く継続できるよう、声掛けや生活リハビリ運動など取り入れ支援している。昼間は布パンツやパットだけの利用者も多い。トイレ内の支援に関しては、自分でできることは、時間がかかってもゆっくり見守り、自立に向けた支援を行っている。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に排便があるように、医師の指示通りに緩下剤の内服を介助している。腹部マッサージや温療法を行ったり、乳製品を好みに合わせて提供し、通じをよくする等職員が援助し、気づいたことを共有し実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>「入りたい」という気持ちを持って入浴して頂けるように支援し、無理強いない入浴を職員間で共有している。難しい時は時間帯や日にちを変えて再度入浴の声掛けを行っている。</p>	<p>血圧などを測定し体調を把握してから入浴をするよう配慮している。入浴後はイオン飲料で脱水予防を図っている。大浴場で一人ひとりの希望の日時に応じた入浴が行われている。季節感のある入浴剤やゆず湯で楽しめる取り組みも行われている。</p>	

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>起床時間は夜間の睡眠の様子や朝の覚醒の状態をみて声掛けをしている。夜間、眠れない方へ寄り添い安心できる対応をしている。日中、短時間居室で午睡したり、ソファで休憩をとっている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>一人ひとりの疾病と服薬内容を理解し、確実に内服できるように介助している。副作用については施設看護師から申し送りがある。薬の変更や追加があった場合は、言動に注意し、ふらつきや転倒の危険が少ないよう見守りを強化している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>趣味を継続出来ることを目的としてクラブ活動への参加を促している。日常生活の中で家事動作など役割分担を行い、入居者様の得意な分野を見極め勧めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>外出した時の表情が良いことから、散歩、参拝、花見等少人数で外出機会を持っている。目的を持った買い物を職員と1対1で近くのコンビニやスーパーに出かけている。(コロナ感染症で外出禁止時は中止)</p>	<p>日常的には、食材やおやつを買いにスーパーやコンビニによく出かけている。買い求めたおやつを公園で楽しむこともある。非日常的には利用者もおしゃれをし、職員も私服でレストランに行くこともある。馴染みのうどん屋などへの希望にも職員が同行し支援を行っている。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人様が所持している小銭をみると、困惑される為、基本的にはお金は家人様に管理して頂いている。小銭を所持していることで安心する方は他者とのトラブルが無いよう援助し所持している。買いたいものは一緒に選び、一旦立て替えをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(リバレンス)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>生活上の不安などで、家族との電話を希望される方へは、電話し安心できるように援助している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>日中、夜間共に照明を調整し、明るい雰囲気になっている。食堂兼リビングは広いベランダへと続いており、軽い開放感がある。室内も室外も花を飾り、季節感を出している。壁には行事予定の張り紙や、入居者様の作品、外出の写真が展示され、展示品を見ながら交流が生まれている。</p>	<p>明るいリビングから続くベランダには季節の花を植え、水やりを楽しみ、季節感を味わえる工夫をしている。リビングの整理整頓は利用者と一緒に居心地よく過ごせるよう支援している。リビングは夜間も明るい状態にしてあり、利用者の不安を取り除き、安全に行動できるよう配慮している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>一人で気に入ったソファや「椅子に腰掛け、新聞や雑誌を見てご自分のペースで過ごしたり、リビングのテーブル席やソファで2,3人でおしゃべりをしながら、自然に交流が生まれている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>使い慣れた家具や小物を置いたり、家族様の写真を飾ったりしている。</p>	<p>チェストや嫁入りタンス、戦死した夫が祀られている大きな仏壇、習字の賞状、孫の作品、写真など馴染みのある大切なものを配置し飾り、居心地の良い居室となるよう配慮している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>職員と一緒に家事を行ったり、トイレ動作で出来ないところをさりげなく援助し、安全に配慮しながら出来る動作を行ってもらっている。安全重視で管理的にならない様、申し送りの中でケアの統一の為に、情報の共有を行っている。</p>		

V アウトカム項目(リバレンス) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	「地域社会に愛され役立つ施設として、利用者様それぞれの尊厳を守り、生活意欲を高め充実した日々、安全な生活を快適に維持し実感して頂く」という法人理念を会議で取り上げ職員一丸となり施設を運営している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域内の喫茶店やレストランへ食事に行ったり、商店、コンビニに買い物に行き、交流を持っている。地域住民の参加を目的に萬象園祭りや花火大会を開催し、地域とのつながりを深めている。(コロナ感染症の為、萬象園祭りと花火大会はR2年度は中止)		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	電話相談や施設見学、介護サービスの利用相談に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	入居者様、家族様、町内会役員、居宅事業所、有料老人ホーム、地域包括支援センターの参加で偶数月に開催している。運営全般について報告を頂いている。新たなことを始めている場合も会議に載せている。また、事故や苦情についても明らかにしている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	日頃から利用者様の利益の為に、サービス内容についての問い合わせ、対応などを行っている。また、市が主催する研修会に参加し、施設内でも勉強会を行っている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>身体拘束禁止委員会を発足し、委員会の結果は全職員に議事録を回覧し、周知徹底している。職員研修も行い、身体拘束をしないケアを目的に定期開催を予定している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>外部の研修会への参加や施設内で権利擁護、プライバシーの保護、虐待についての勉強会を実施している。安全委員会では事例を通して職員に質問形式として自分を振り返る等、啓発運動を継続的に行っている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>集団指導研修などの外部研修で学び、職員へ周知している。相談があれば各種機関の資料を準備し、説明の上相談先へ繋げている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>重要事項説明書に沿って説明し、ご理解頂いた上で契約書に署名をお願いしている。電話での問い合わせも丁寧な説明を心掛けている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>運営推進会議で質疑し、議事録を開示している。苦情は施設以外の公的機関へ申し立てが出来る事を伝えている。苦情は受付後、解決まで対応し、対策が継続して行われているかの確認も行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	行事、日課、業務内容、入居者様の思い等は、会議や各委員会で意見交換を行っている。入居者様がより良い生活を送れるよう、職員皆で努力している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	半期毎に個人面談を行っている。各自のレベルに応じて目標を立てている。経験や習熟度により責任のある職位を任せバックアップしている。資格の取得の為に個人学習をする場合、勤務に配慮している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修への参加と、施設内学習会を2本立てで実施している。施設内学習は、介護、医療、接遇と各種のテーマで系統を立てて行っている。習得を奨励し自己学習については休務の希望を受けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	居宅や他の事業所と交流したり、定期的な委員会の報告会や勉強会を行っている。(コロナ感染症で面会禁止時は中止)		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前に本人さんと家族様に面談を行い、家族様からの情報と合わせて、本人様の心情を汲み取っている。本人様の情報は、職員間で共有し信頼関係を築き、安心感が持てるケアを行っている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	家族様等の要望に対して、家族様との面談を設け、個別に話をすることで、本人様、家族様双方が無理なく生活できるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居判定会議を行い、入居に至るまでの経緯を明確にし、多職種とも話をすることで、入居時に本人様に対して何を援助していくかの方針を導き、サービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家事仕事等本人様に適した役割を持って頂く事で、充実した日常を送り、共に喜び感謝の意を職員が表している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎月、日々の生活の様子を写真と一緒に郵送している。面会時には本人様の様子を都度伝えている。また、外出のサポートや行事の際、家族様と過ごして頂く企画を提案している。今年度に関してはコロナ感染症の影響により、面会に規制がある。電話対応等対応を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族様に、大切にしていた思い出の写真などに名前を記入して頂き、写真を見ながら、職員と一緒に話をしている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	ユニット内の人間関係が良好に保てるよう、気の合う方をみつけられる場所などを提供し、職員が仲介をする事で、気の合う方をみつけ、席の配置を考慮している。また、職員が全体を把握することでトラブル回避に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	不定期だが、住み替えをされた方に会いに行き、本人様の状態に応じた声かけで過去の居住空間を思い出して頂いている。家族様に会った際も話し傾聴している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人様の思いを知り、介護計画を作成している。意思の表出が困難な方は、家族参加型ケアプラン会議で家族様から生活歴や生活習慣等の情報を得て、本人の言動や表情を探りながら、職員間で検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の面談時から情報収集に努めている。入居後も関わっていた事業者、本人様、家族様から情報を得て、住み替えのダメージが軽減できるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	法人で決められた基準を元に毎日ADL、QOLの評価を行い、入居者様一人ひとりの状態変化の把握に努めている。また、変化があった事等は記録に記している。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	本人様、家族様の思いを確認し、医師、看護師、栄養士などとの連携を図り、本人様が「できるという心地よい気持ち」を持てるような介護計画を作成している。変化があれば都度見直し、職員に周知している。6ヶ月で短期目標を、12か月で長期目標の全てを評価し、生活援助に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	様々な生活場面での言動、表情、仕草を観察し、ケース記録に記載している。日々の申し送りや情報共有し、新たなニーズやリスクが生じていないかを確認しながら、残存能力維持を目標に本人様の力を引き出すような介護計画を作成するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	食欲の低下した入居者には、献立以外で本人が食べやすい物を準備し勧めている。また、複合施設の特徴を活かし、他の階と協力して行っている、クラブ活動や行事への参加を勧めている。(今年度はコロナ感染症の各階の制限がある時はGHのみで実施。)		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	ボランティアの協力で活気のある音楽レクを実施したり、修二を習い展示するなど生活の質を充実させている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時、どの医療機関を受診するかを確認し、主治医を定めて頂いている。提携病院からは神経内科、歯科の往診がある。年1回は健診を実施し健康維持に役立っている。看護師や職員は、家族様や医療従事者と連携をとっている。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>介護職員は入居者様それぞれの観察点や注意点を熟知しており、毎日の健康チェックの結果や症状、訴えを施設看護師へ報告し、必要時は指示を受けている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>病棟看護師との情報交換を行っている。退院後は主治医の指示を守った生活を援助している。主治医、施設看護師の助言を得て、安全に生活できるよう援助している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>身体に変化がみられる方は、家人との面会時、都度状況を説明している。身体介護中心となった場合など重要事項説明書の手順で住み替えの話を行い、経過をフォローしている。</p>		
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>看護師の指導で施設内で系統立てて医療学習会を行っている。緊急対応や医療機器の保管場所の把握、緊急輸送時の連絡体制など、実践に向けた学習を積み重ねている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>災害時の対処についてはマニュアルを整備している。避難訓練は入居者も参加し年2回実施している。町内会長や民生委員を通じて、地域住民に災害時の協力をお願いしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	委員会が中心になり、全職員が接遇に沿った介助を心掛ける取り組みを実施している。排泄誘導など尊厳に関わることはさりげなく行うなど配慮している。個人ファイルはヘルパーステーション内で管理している。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	理解できる内容をゆっくと分かり易くせつめいしている。選択肢を提供することで、本人様の意思決定を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	観葉植物や生け花に興味を持っていた際、職員が共に水をやったり、花を生け替えたりする。個別対応可能な時は外出したいという希望に応じている(コロナ感染症で面会禁止時は中止)。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	出張理容で理容を受け(コロナ感染症で面会禁止時は中止)、清潔感を保っている。環境委員が中心となり、利用者様の整容など曜日を決め、こまめに実施している。化粧をする入居者様に「綺麗」と褒めることで継続に繋げている。(コロナ感染症で外出禁止以外)外出時は、職員が手伝い更衣や化粧を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事は施設が提供するが、毎日ご飯、みそ汁つぎ、メインの盛り付けは、入居者様と行っている。週に1回、昼食を入居者様と職員で作っている。食材の買い物も入居者様と出掛けている(コロナ感染症で外出禁止の時は職員が買う)野菜の下ごしらえや簡単な調理を一緒に行い、食後の食器拭きも役割分担している。		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>嚥下や咀嚼の状態により食事形態を変更し、医師の指示の治療食にも対応している。1日の食事量、水分量を把握し摂取量が少ない入居者様には嗜好品や好みの飲み物を勧めている。体重変化を観察し、保健室と連携をとっている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後、口腔ケアを行い、口腔内の状態を維持するよう努めている。声掛けや工夫で自発的な動作を促している。変化があれば歯科往診時に相談している。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>日中は個々の排泄パターンに合わせて声掛けすることで、トイレで排泄できるよう援助に努めている。パットの使用量の減少、布パンツの使用の継続に繋がっている。動作は動作は出来るところまで本人様に行ってもらっている。</p>		
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>定期的に排便があるように、医師の指示通りに緩下剤の内服を介助している。腹部マッサージや温療法を行ったり、乳製品を好みに合わせて提供し、通じをよくする等職員が援助し、気づいたことを共有し実施している。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>「入りたい」という気持ちを持って入浴して頂けるように支援し、無理強いない入浴を職員間で共有している。難しい時は時間帯や日にちを変えて再度入浴の声掛けを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>起床時間は夜間の睡眠の様子 や朝の覚醒の状態をみて声掛け をしている。夜間、眠れない方へ 寄り添い安心できる対応をして いる。日中、短時間居室で午睡 したり、ソファで休憩をとって いる。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めて いる。</p>	<p>一人ひとりの疾病と服薬内容を 理解し、確実に内服できるように 介助している。副作用については 施設看護師から申し送りがある。 薬の変更や追加があった場合は、 言動に注意し、ふらつきや転倒 の危険が少ないよう見守りを強 化している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。</p>	<p>趣味を継続出来ることを目的 としてクラブ活動への参加を促 している。日常生活の中で家事 動作など役割分担を行い、入居 者様の得意な分野を見極め勧 めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも、 本人の希望を把握し、家族や 地域の人々と協力しながら出 かけられるように支援してい る。</p>	<p>外出した時の表情が良いこと から、散歩、参拝、花見等少 人数で外出機会を持っている。 目的を持った買い物を職員と 1対1で近くのコンビニやス ーパーに出かけている。(コロ ナ感染症で外出禁止時は中止)</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。</p>	<p>本人様が所持している小銭を みると、困惑される為、基本 的にはお金は家人様に管理し て頂いている。小銭を所持し ていることで安心する方は他 者とのトラブルが無いよう援 助し所持している。買いたい ものは一緒に選び、一旦立て 替えをしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目(パティシエ)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	生活上の不安などで、家族との電話を希望される方へは、電話し安心できるように援助している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	日中、夜間共に照明を調整し、明るい雰囲気になっている。食堂兼リビングは広いベランダへと続いており、軽い開放感がある。室内も室外も花を飾り、季節感を出している。壁には行事予定の張り紙や、入居者様の作品、外出の写真が展示され、展示品を見ながら交流が生まれている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	一人で気に入ったソファや椅子に腰掛け、新聞や雑誌を見てご自分のペースで過ごしたり、リビングのテーブル席やソファで2,3人でおしゃべりしながら、自然に交流が生まれている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や小物を置いたり、家族様の写真を飾ったりしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	職員と一緒に家事を行ったり、トイレ動作で出来ないところをさりげなく援助し、安全に配慮しながら出来る動作を行ってもらっている。安全重視で管理的にならない様、申し送りの中でケアの統一の為に、情報の共有を行っている。		

V アウトカム項目(パティシエ) ← 左記()内へユニット名を記入願います

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム広島萬象園

作成日 令和3年4月16日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	28	コロナ感染症の為、GHのみでのサービス提供となっている。季節を感じる事が減少した。	季節感、味覚等その瞬間を楽しんでもらう。日常生活でも入居者、職員が共に刺激を受けるサービスの提供。	コロナに負けず、ベランダの活用や土手への散歩等、入居者同士の交流の場の提供を行う。	今年度を通して実施。
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。